

2024 年間学習予定表

1年生

1年間の学習予定です。
これを参考にして学習計画を立て、学習に励みましょう。
定期考査の範囲については、必ず事前に確認してください。

愛知県立旭野高等学校

1年生シラバス目次

| | | |
|---------------|-------|----|
| 現代の国語 | ----- | 1 |
| 言語文化 | ----- | 2 |
| 地理総合 | ----- | 4 |
| 歴史総合 | ----- | 5 |
| 数学ア | ----- | 7 |
| 数学イ | ----- | 11 |
| 物理基礎 | ----- | 14 |
| 生物基礎 | ----- | 15 |
| 体育 | ----- | 16 |
| 保健 | ----- | 17 |
| 英語コミュニケーション I | ----- | 18 |
| 論理・表現 I | ----- | 20 |
| 家庭基礎 | ----- | 22 |
| 総合的な探究の時間 | ----- | 24 |

令和六年度 現代の国語 年間学習予定 (シラバス)

1 学習の方法・予習のポイント

- ・意味の分からない語句や曖昧にしかわからない語句については、あらかじめ国語辞典で調べておく。
- ・本文中に出てくる漢字については、繰り返し練習し書けるようにする。
- ・学習のポイントにしたがって、本文をまとめる。
- ・漢字・文学史は国語の基本である。各自でしっかりと学習して考査に備える。

2 学習予定

| 学期 | 単元 | 教材 | 学習のポイント | 考査範囲 | 副教材 | |
|---------|------|---------------------|--|-------|--|--|
| | | | | | 文学史 | 上級入試漢字 |
| 1 学期 | スピーチ | スピーチ 「好きな本について」 | <ul style="list-style-type: none"> ・話し言葉の特徴や役割を理解し、言葉遣いを工夫する。 ・自分の考えを的確に伝えるため話の構成や展開を考える。 | 中間考査 | 第1回～4回 (p6～13) | 最頻出漢字 200 最重要語彙 40 (p4～15) |
| | 評論 | 「『本当の自分』幻想」 山崎正和 | <ul style="list-style-type: none"> ・題名をヒントに主題をつかむ。 ・論理的に整理された文章をとらえる。 ・個人の中に含まれる多様性を理解する。 | | | |
| | 小説 | 「羅生門」 芥川龍之介 | <ul style="list-style-type: none"> ・舞台設定（時代背景・場所・人物像など）を整理する。 ・登場人物の心理の変化を、そのきっかけとともに捉える。 ・表現の特徴とそれが小説に与える効果を考える。 | 期末考査 | 第5回～8回 (p20～25、 32・33) | 第1章 p18～41 |
| | 評論 | 「ものことば」 鈴木孝夫 | <ul style="list-style-type: none"> ・文章全体の展開を考え、読解力を養う。 ・筆者が主張する言語の性質について読み取り、自分の考えを深める。 | | | |
| 夏休み | | 夏休み課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・課題の内容を理解する。なぜその答えになるのかを追求する。 ・長期間の休みを利用して本を読む。 ・読書コンクールや小論文のコンクール等に積極的に参加する。 | 実課考査 | 展開図 (p4・5、18・19)、 入試問題 (p14～17、26～29) | 第2章 p42～65 |
| 2 学期 | 評論 | 「『文化』としての科学」 池内了 | <ul style="list-style-type: none"> ・筋道を立てて物事を考察し、根拠を示して論述する。 ・筆者が考える科学と技術の違いを理解し、現在の科学と技術の関係を考察する。 | 中間考査 | 第9回～ 12回 (p34～37、 46～49) | 第3章 p66～89 |
| | 評論 | 「現代の『世論操作』」 林香里 | <ul style="list-style-type: none"> ・文章構成を捉え、要旨を的確に把握する。 ・メディア社会の特徴を意識し、問題意識をもつ。 | | | |
| | 評論 | 「無彩の色」 港千尋 | <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の考えの根拠となる事例を段落ごとに探し、把握する。 ・日本の伝統的な色名や由来に興味をもつ。 | 期末考査 | 第13回～ 16回 (p50～57) | 第4章 p90～113 |
| | 評論 | 「フェアな競争」 内田樹 | <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の言う「社会的共通資本」と「フェアな競争」との関係性を捉える。 ・筆者の意見に対して賛否の両面から自分の意見をもつ。 | | | |
| 冬休み | | 冬休み課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・課題の内容を理解する。なぜその答えになるのかを追求する。 ・長期間の休みを利用して本を読む。 | 実課考査 | 展開図 (p30・31、 42～45)、 入試問題 (p38～41) | 第5章 P114～137 |
| 3 学期 | 評論 | 「不均等な時間」 内山節 | <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の言う「伝統的な畑仕事」と「農業経営」との違いを捉える。 ・近代社会に対して賛否の両面から自分の意見をもつ。 | 学年末考査 | 第17・18回 (p58～61) | 第6章 p138～157 |
| | 小説 | 「城の崎にて」 志賀直哉 | <ul style="list-style-type: none"> ・作者の生きることに関する考え方を読み取る。 ・作者の考え方や生きることに対して自分の意見をもつ。 | | | |
| 春休み | | 春休み課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・2年生に向けて準備（既習事項の復習や語彙、漢字、文学史の学習）をする。 | 実課考査 | 入試問題 (p62～69) | 第7章 p158～197 |

3 評価方法

- ① 定期考査の成績および課題考査の成績に平常点（漢字の小テスト・授業のワークシート・ノートや作文等の課題などの内容や提出状況、および学習活動への参加の姿勢などで評価する）を加味して評価する。
- ② 評価は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の各観点から行う。

令和六年度 言語文化 年間学習予定 (シラバス)

1 学習の方法・予習のポイント

- ①音読の練習。本文を何回も音読し、暗唱できるぐらいにしていこう。予習はとにかく音読。
- ②文中の用言の活用形をすぐに識別できるようにする。そのためには活用の種類、活用する行について覚えて使えるようにする。
- ③助動詞に習熟する。文中の助動詞はすぐに気が付き、その文法的意味と活用形を指摘できるようにする。
- ④古語辞典を早く引けるようにする。特に語源や語感の部分を丁寧に読み、その単語のイメージを作るようにする。
- ⑤文法を踏まえた逐語訳ができるようにする。
- ⑥自主学習教材 (LT古文など) は、必ず自力で解く。添削を丁寧にし、なぜその答えになるのかを追究する。

2 学習予定

| 学期 | 単元 | 教材・学習のポイント | 文法事項のチェックポイント (学習したらチェックしよう) | 考查範囲 | LT古文範囲 |
|-------------|-------|---|---|--|---|
| 1 学 期 | 古文入門 | 古文入門 ・現代文と古文の違いを知る。 ・歴史的かなづかいを理解する。 ・古語辞典の使用法を知る。 「絵仏師良秀」(『宇治拾遺物語』) ・古文独特の言葉を理解する ・現代語訳の基本を知る。 ・話の筋をつかみ、面白さを知る。 ・用言を指摘し、活用を覚える。 | 〈歴史的かなづかい〉 <input type="checkbox"/> 五十音図を正確に書ける。 <input type="checkbox"/> いろは歌が言える。 <input type="checkbox"/> 歴史的かなづかいが正しく読める。 〈文法：用言〉 <input type="checkbox"/> 文法的意味を表す熟語と口語訳をすぐに結びつけて言える。 <input type="checkbox"/> 活用形の意味が言える。 <input type="checkbox"/> 活用の種類が言える。 <input type="checkbox"/> 動詞の正格活用が言える。 <input type="checkbox"/> 四段 <input type="checkbox"/> 上一段 <input type="checkbox"/> 上二段 <input type="checkbox"/> 下一段 <input type="checkbox"/> 下二段 | 中間 考查 | 第1、2回 (p4~9) ポイント整理(歴史的仮名遣い)と正格活用動詞 |
| | 随筆 | 「丹波に出雲といふ所あり」 (『徒然草』) ・古語辞典を利用して現代語訳ができるようにする。 ・登場人物の心情を、場面を通して理解する。 ・助動詞の用法を理解する。 ・日本三大随筆と名高い作品に触れ、当時の人々の思想や感覚を感じる。 | 〈文法：用言〉 <input type="checkbox"/> 動詞の変格活用が言える <input type="checkbox"/> カ変 <input type="checkbox"/> サ変 <input type="checkbox"/> ナ変 <input type="checkbox"/> ラ変 <input type="checkbox"/> 動詞を指摘し、活用の種類・活用形が識別できる。 <input type="checkbox"/> 形容詞の活用が言える。 <input type="checkbox"/> ク活用 <input type="checkbox"/> シク活用 <input type="checkbox"/> 形容詞を指摘し、活用の種類・活用形が識別できる <input type="checkbox"/> 形容動詞の活用の種類が言える。 <input type="checkbox"/> ナリ活用 <input type="checkbox"/> タリ活用 <input type="checkbox"/> 形容動詞を指摘し、活用の種類・活用形が識別できる。 〈文法：助動詞〉 ・次の助動詞について、 ①文法的意味 ②現代語訳 ③接続 ④活用 が言える。 <input type="checkbox"/> 過去の助動詞 <input type="checkbox"/> 完了の助動詞 <input type="checkbox"/> 推量の助動詞 <input type="checkbox"/> 打消の助動詞 | 期末 考查 | 第3、4回 (p6~13) ポイント整理 (p14、15) |
| | | 《期末考查後》 漢文入門 「狐借虎威」 | 〈漢文〉 <input type="checkbox"/> 返り点の用法が分かる。 <input type="checkbox"/> 書き下し文に直せる。 <input type="checkbox"/> 書き下し文を見て、白文に訓点が施せる。 <input type="checkbox"/> 使役の用法が分かる。 <input type="checkbox"/> 疑問・反語の用法が分かる。 | 2学期 中間 考查 | |
| 夏 休 み | 夏休み課題 | 《問題演習》 ・テキストの問題を解くだけでなく、現代語訳・文法の確認をしっかりと行いましょう。 ・1学期で習った文法事項を復習し、確実なものにしましょう。 | 実 課 考 査 | ・第5、6回 (p16~19) ・LT古文 付属文法基本 ノート 第1回 ~10回 (p1~14) | |

| | | | | | |
|-------------|---|--|--|--|--------------------------|
| 2 学 期 | 歌物語 | 「東下り」(『伊勢物語』) ・和歌の解釈を踏まえ、登場人物の状況や心情を読み取る。 ・和歌の修辞法を理解する。 ・作品とその解説を読み、歴史的、文化的背景を理解する。 | 〈文法：助動詞〉 ・次の助動詞について、 ①文法的意味 ②現代語訳 ③接続、 ④活用 が言える。 <input type="checkbox"/> 断定の助動詞 <input type="checkbox"/> 伝聞・推定の助動詞 <input type="checkbox"/> 使役・尊敬の助動詞 <input type="checkbox"/> 受身・可能・自発・尊敬の助動詞 〈修辞法〉 ・次の修辞法について説明ができる。 <input type="checkbox"/> 枕詞 <input type="checkbox"/> 序詞 <input type="checkbox"/> 掛詞 <input type="checkbox"/> 縁語 <input type="checkbox"/> 折り句 <input type="checkbox"/> 掛詞や序詞を生かした現代語訳ができる。 | 中間 考查 | 第7回、8回 (p20～23) |
| | 日記文学・漢文 | 「先從隗始」(『十八史略』) ・漢文を正確に読めるようにする。 ・書き下し文が正しく書けるようにする。 ・語句、語法に注意して正確な現代語訳ができるようにする。 「門出」(『土佐日記』) ・当時の人々の生活や教養を知る。 ・語句、文法に注目し、古文の時代にも発音的省略があったことを知る。 | 〈漢文〉 <input type="checkbox"/> 返り点の用法が分かる。 <input type="checkbox"/> 書き下し文に直せる。 <input type="checkbox"/> 書き下し文を見て、白文に訓点が施せる。 <input type="checkbox"/> 使役の用法が分かる。 <input type="checkbox"/> 疑問・反語の用法が分かる。 <input type="checkbox"/> 抑揚・比較の用法が分かる。 〈文法：助動詞〉 ・次の助動詞について、 ①文法的意味 ②現代語訳 ③接続、 ④活用 が言える。 <input type="checkbox"/> 推量の助動詞 <input type="checkbox"/> 打消推量の助動詞 <input type="checkbox"/> 推定の助動詞 <input type="checkbox"/> 願望の助動詞 <input type="checkbox"/> 反実仮定の助動詞 <input type="checkbox"/> 比況の助動詞 | 期末 考查 | 第9回～ 11回 (p24～29) |
| | 漢詩 | 《期末考查後》 漢詩入門 「春暁」孟浩然 「送元二使安西」王維 「静夜思」李白 ・繰り返し音読して、漢詩のリズムになれる。 ・作品に表れているものの見方や感じ方を捉え、内容を理解する。 ・漢詩の世界に親しむ。 | 〈漢文〉 漢詩の規則を身に着ける。 <input type="checkbox"/> 五言律詩 <input type="checkbox"/> 五言絶句 <input type="checkbox"/> 七言律詩 <input type="checkbox"/> 七言律詩 <input type="checkbox"/> 押韻 <input type="checkbox"/> 对句 | 学年 末 考 査 | |
| 冬 休 み | 冬休み課題 | 問題演習 ・助動詞を中心に、2学期で習った文法事項を確認しましょう。 ・漢文の規則や句法を復習しておきましょう。 | 実 課 考 査 | ・第12～14回 (p30～37) ・LT古文 付属文法基本 ノート 第11回 ～14回 (p15～18) | |
| 3 学 期 | 随筆 | 「中納言参り給ひて」 (『枕草子』清少納言) 『古典講読シリーズ 枕草子』渡辺実 ・登場人物相互の心情を読みとり、主題を理解する。 ・敬語法を理解する。 ・作品とその解説を読み、自分の物の見方や感じ方を深める。 | 〈敬語法〉 <input type="checkbox"/> 敬語表現の種類とその意味が言える。 <input type="checkbox"/> 尊敬 <input type="checkbox"/> 謙譲 <input type="checkbox"/> 丁寧 <input type="checkbox"/> 敬語の補助動詞の現代語訳ができる。 <input type="checkbox"/> 主な敬語動詞を現代語訳できる。 <input type="checkbox"/> 文中での敬意の方向を説明できる。 <input type="checkbox"/> 敬語を使わない言い方に改められる。 <input type="checkbox"/> 最高敬語、絶対敬語、自敬表現について、説明できる。 | 学 年 末 考 査 | 第15回 ～17回 (p38～43) |
| 春 休 み | 問題演習 ・1年生で習った文法事項は、3年間の古典学習の根幹をなすものです。再確認をして春休み中に定着しておきましょう。 ・重要古語もまとめておくとよいでしょう。 | | 実 課 考 査 | 第18回 ～20回 (p44～49) | |

3 評価方法

- ① 定期考查の成績および課題考查の成績に平常点(文法の小テスト・授業のノート・課題などの内容や提出状況、および学習活動への参加の姿勢などで評価します)を加味して評価します。
- ② 評価は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の各観点から行います。

「わたしたちの地理総合」 シラバス

1 学習の到達目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

2 使用教科書・副教材

教科書:「わたしたちの地理総合」「標準高等地図」

副教材:「わたしたちの地理総合ワークブック」「新詳地理資料COMPLETE2024」

3 年間指導計画例

| 学期 | 月 | 章 | 学習項目 | 学習内容とねらい | 節配当時数 | 考查範囲 | 評価方法 | |
|------|-----------|--|--|---|--|--------------------------------------|---------------------------------------|---|
| 1 学期 | 4 月 | 1 章 | 1 節 球面上の世界 1.2 球面上での生活 3 世界地図でとらえる地球 | 球体としての地球、時差と生活、おもな図法による世界地図、地図の表現を理解する。球面上の正しい方位や時差、図法によって異なる世界地図の特色を理解し、以降の学習の基盤を築くとともに、日常生活で活用する力を身につける。 | 3 | 1 学期中間 2 学期中間 1 学期期末 2 学期期末 | 発表課題 定期考査 ワークシート 提出物 観察評価 | |
| | | | 2 章 | 1 節 自然環境と生活文化 1 地球上の地形のなりたち 2.3 山地と平野/海岸部の生活 4 地球上の気候のなりたち 5 暑い気候 アフリカ 6 乾燥した気候 サウジアラビア・モンゴル 7 季節の違い 大陸の西岸と東岸 8 寒冷な気候 シベリア | 世界的な視野から地球上の起伏の分布がプレートテクトニクスにもとづくプレート境界と関連していることを捉える。また、河川がつくる地形や海岸部の地形、それらの地形を活かした暮らしの特徴を学習し、写真や地形図によって具体的に読み取り、考察する技能を身につける。 世界的な視野から大気が循環する仕組みを捉え、日射のほか地形分布や海流などからも影響を受けて気候の地域性が生まれることを理解する。世界の各気候帯の自然環境の特色、人々の暮らしと工夫について、写真や雨温図、分布図などの資料から考察する。 | | | 9 |
| | 6 月 | 生活文化の多様性と国際理解 | 2 節 産業の発展と生活文化 1 農業の地域性 2 農業 南アジア 3 工業の地域性 4.5 経済成長 中国 6.7 工業化 タイ・ベトナム | 世界の農業・工業・第3次産業の特徴と生活文化との関連性を捉え、その地理的環境や歴史的背景を理解する。また、アジア各地の事例地域の学習を通して、経済活動の国内・国際的な発展と、グローバル化による生活文化の変容を動的に捉え、主題図や写真などの資料を通して考察する。 | 9 | | | |
| | | | 3 節 言語・宗教と生活文化 1 世界の言語 2 世界の宗教 3 仏教圏の生活文化 4 キリスト教圏の生活文化 5.6 イスラム圏の生活文化 7 世界の多民族・多文化社会 8 社会の形成 ラテンアメリカ 9 多文化社会 オーストラリア | 世界の言語・宗教の特徴と分布、生活文化との関係を考え、その地理的環境や歴史的背景から地域的特色を理解する。また、現代社会における言語・宗教の変容を動的に捉え、主題図や写真などの資料から考察する。世界の少数民族や少数言語、宗教対立、移民・難民などの現代社会の諸課題を理解し、互いに多様な文化を尊重する多文化共生社会の実現方法について議論し、考察する。 | 7 | | | |
| | 7 / 9 月 | 4 節 グローバル化の進展と生活文化 1~3 地域統合 EU 4~6 グローバル化 アメリカ | EUの統合による産業や生活文化への影響、そして統合によって生じている経済格差や移民問題などの諸課題を理解し、ヨーロッパ各国の国家としての在り方の変容、EUと日本のつながりについて考察する。 アメリカ合衆国建国時から多様性を育んできた地理的環境・歴史的背景を理解し、グローバル社会で世界をリードする産業の発展と企業の国際化の過程を捉え、アメリカ合衆国の変容、日本とのつながりについて考察する。 | 3 | | | | |
| | | | 1 節 人口・食料問題 1 世界の人口問題 2 人口増加 中国とインド 3 人口停滞 スウェーデンと日本 4 世界の食料問題 5 人口増加と食料問題 アフリカ | 世界人口の急増によって生じる問題を世界的視野から理解し、人口ピラミッドや主題図などの資料から問題の所在と解決のための取り組みを考察する。また、人口急増国だけでなく人口停滞国の事例を通して、各国の人口政策や諸問題について比較し、理解を深める。持続可能な発展のために、飢餓や飢饉などの食料問題と人口問題を関連させて理解する。その際、モノカルチャー・経済や気候変動などの背景的要因も捉えながら、グローバル・ローカルな視点から解決方法を構想する。 | 4 | | | |
| | 2 学期 | 10 月 | 3 章 | 2 節 居住・都市問題 1 世界の居住・都市問題 2 大都市 ロンドン・ニューヨーク 3 密集都市 メキシコシティ・ジャカルタ | 都市に人口が集中する要因を主題図や統計資料から読み取るとともに、人口集中によって引き起こされる都市問題についても写真などから判断する。また、途上国と先進国では異なる都市問題が発生していることを理解し、その構造的要因を考察する。都市問題を解決するための都市政策や科学技術の事例に触れながら、解決の方策を構想する。 | | | 4 |
| | | | | 3 節 資源・エネルギー問題 1 世界の資源・エネルギー 2 エネルギー資源の生産・消費と課題 3 再生可能なエネルギーへの移行 4 鉱産資源 ロシア・オーストラリア・日本 | エネルギー資源の変化を世界的な視野から概観し、主題図や統計資料をもとに資源の偏在性、有限性、そして消費における地域格差などの諸課題を読み取る。エネルギー資源の持続可能な利活用と安定供給を実現するために、化石燃料や再生可能エネルギーのメリットやデメリットを比較し、国際協力の必要性、日本とのつながりについて考察する。 | | | 3 |
| | | | | 4 節 地球環境問題 1 地球温暖化の現状と将来 2 熱帯林の減少 アマゾン・東南アジア 3 砂漠化の進行 アラル海 | 地球温暖化・熱帯林減少・砂漠化など、地球規模でおこっている環境問題の仕組みを構造的に理解する。地球環境を守り持続可能な発展を実現するためには、国際的な協力体制が必要だけでなく、その背後にある政治・経済的な課題解決も求められることを考察する。また、環境問題と自分自身とのつながりを意識し、SDGsの因果関係も捉えながら具体的な取り組みを構想する。 | | | 5 |
| | | | | 1 節 国家の領域と領土問題 1 国家の領域と海洋の役割 2 日本の位置と領土問題 | 国家の3要素や国境のなりたち、領域における海洋の役割、日本と周辺諸国との間の領有権問題について理解する。国境や領土問題が国際関係、人々の生活におよぼす影響を考察する。 | | | 3 |
| 3 学期 | 1 2 / 1 月 | 地図とGISの活用 | 3 節 国内や国家間の結びつき 1 国家をこえた結びつき 2 観光による結びつき 3 交通・通信による結びつき 4 貿易・物流による結びつき | 外国で暮らす日本人を題材として、日本と諸外国との関係を理解する。国家間の結びつきを地域経済圏や国際連合を通して考察する。観光、交通・通信、貿易・物流の視点から、人や物・資本・サービス、情報の国際的な移動のようすを理解する。さまざまな統計地図や統計資料を分析し、表現する地理的技能を養う。 | 5 | | | |
| | | | 4 節 日常生活のさまざまな地図 1 身の回りにおけるさまざまな地図 2 地理情報システムのしくみと使い方 | 身の回りにおける地図を題材にして、地図を用いた情報伝達の方法を習得する。地理情報の電子化について学習し、紙の地形図と電子地形図の違いや用途を理解し、活用する。地球儀ソフトや地理院地図などのGISソフトウェアを利用して地理空間情報を扱い、表現する技能を養う。 | 3 | | | |
| | | | 1 章 | 1 節 自然環境と防災 1 日本の地形・気候と生活 2~4 風水害/火山/地震・津波と防災 5 都市型災害と防災 6 防災・減災への心構え | 日本列島の地形や気候のなりたちと多様性について、主題図やグラフ、写真などの資料から理解する。また、日本列島では自然による恩恵だけでなく、風水害、火山、地震・津波、都市型災害などが発生することを世界的な視野から捉え、その要因と特徴、災害の地域性、防災や減災への取り組みや課題を考察する。新旧地形図やハザードマップなどを活用し、自らの生活圏の防災について考察し、表現する技能を身につける。 | 8 | | |
| | | | 2 節 持続可能な地域づくり 1 地域調査の実施手順と方法 2~4 地域調査 軽井沢 | 生活圏の課題を解決するための手法としての地域調査を実施し、身近な地域の魅力やかかえている課題を見だし、調査を踏まえてその解決策を考察する。地域調査の一連の手順を理解し、景観観察やアンケート、聞き取り調査など、さまざまな調査方法を活用する。調査結果や統計ツール、新旧地形図やデジタル地図、各種資料などによって得られた情報を多角的な視点から主題図やグラフにまとめ、将来に向けた地域のあり方を構想する。 | 4 | | | |
| 合計 | | | | | 70 | | | |

令和6年度 歴史総合 年間学習予定表（シラバス）

| | | | | |
|--------|-----|------|---------------|------------------|
| 教科(科目) | 単位数 | 指導学年 | 教科書名 | 副教材名称等 |
| 歴史総合 | 2単位 | 1年 | 帝国書院「明解 歴史総合」 | 帝国書院「明解 歴史総合ノート」 |

| | |
|------|---|
| 到達目標 | 近現代の社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身につける。 |
|------|---|

第3学年（3単位）

| 学期 | 進 度 (単元・章・項) | 学 習 内 容 | 評 価 方 法 | 評 価 の ポ イ ン ト |
|------------------|--|--|--------------------------|--|
| 一 学 期 | 1部 歴史の扉 | ・私たちの身近にあるものには、どのような歴史や世界との結びつきがあるのか学ぶ。 | 提出物 取り組み状況 1学期中間考査 | ・身の回りの事象と世界の歴史が結び付いていることを理解している。 |
| | 2部 近代化と私たち 1章 江戸時代の日本と結び付く世界 | ・18世紀の日本やアジア、ヨーロッパは、それぞれどのように結び付いていたのか学ぶ。 | 提出物 取り組み状況 1学期期末考査 | ・18世紀のアジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易と、日本への影響について、資料を読み取り、理解している。 |
| | 2章 欧米諸国における近代化 | ・欧米で起こった市民革命・産業革命により、社会はどのように変化したのか学ぶ。 | | ・市民社会と国民国家の形成、資本主義社会と国際分業体制確立の経緯について、資料を読み取り、理解している。 |
| | 3章 近代化の進展と国民国家形成 | ・近代化が進むなかで、欧米諸国はどのような国家を形成していったのか学ぶ。 | | ・国民国家の展開と帝国主義による世界分割や移民の状況について資料を読み取り、理解している。 |
| | 4章 アジア諸国の動揺と日本の開国 | ・近代化した欧米諸国の進出に、アジア諸国や日本はどのように対応したのか学ぶ。 | | ・欧米諸国の進出によるアジア諸国の変容について、資料を読み取り、理解している。 |
| 5章 近代化が進む日本と東アジア | ・日本や東アジア諸国は、近代化を通じてどのように変化したのか学ぶ。 | ・明治維新とその後の日本の変化やアジア諸国の変容について、資料を読み取り、理解している。 | | |
| 二 学 期 | 3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1章 第一次世界大戦と日本の対応 | ・第一次世界大戦は、日本を含む世界の人々にとってどのような戦争になったのか学ぶ。 | 提出物 取り組み状況 2学期中間考査 | ・国際関係の視点を軸に、第一次世界大戦勃発から終戦までの経緯と、参戦各国の社会の変化について、資料を読み取り、理解している。 |
| | 2章 国際協調と大衆社会の広がり | ・欧米や日本など、世界各地に広まった大衆化とは、どのようなものだったのか学ぶ。 | 提出物 取り組み状況 2学期期末考査 | ・ヴェルサイユ体制によって形成された国際秩序と、国際社会や各国に生じた政治・社会・文化の変化について、資料を読み取り、理解している。 |
| | 3章 日本の行方と第二次世界大戦 | ・大衆は、どのようにして戦争を導いてしまったのか学ぶ。 | | ・世界恐慌から第二次世界大戦の終戦に至るまでの経緯について、大衆とマスメディアの関わりに着目しながら、資料を読み取り、理解している。 |
| | 4章 再出発する世界と日本 | ・第二次世界大戦を経て、国際秩序はどのように変化したのか学ぶ。 | | ・冷戦構造の形成と、国連を中心とする平和へ向けた新たな国際秩序について、日本と関連付けながら資料を読み取り、理解している。 |
| 三 学 期 | 4部 グローバル化と私たち 1章 冷戦で揺れる世界と日本 | ・冷戦が展開されるなかで、日本や世界の国々はどのような選択をしたのか学ぶ。 | | 提出物 取り組み状況 学年末考査 |
| | 2章 多極化する世界 | ・冷戦が展開されるなかで、日本や世界の国々はどのような経済成長を遂げたのか学ぶ。 | 提出物 取り組み状況 学年末考査 | ・冷戦下の1960年代から80年代における各国の選択と経済成長について、資料を読み取り、理解している。 |
| | 3章 グローバル化のなかの世界と日本 | ・冷戦が終わり、グローバル化は、世界をどのように変えたのか学ぶ。 | | ・冷戦終結の過程とグローバル化の特質について、資料を読み取り、理解している。 |

【提出物】

レポート、課題など

【取り組み状況】

発問への応答、発表など

【年間の評価方法】

定期考査、提出物、取り組み状況を「知識・理解」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点をもとに総合的に評価する。

令和6年度 第1学年 数学ア シラバス

数学ア

○1学期

| 月 | 単 元 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 数学 I 第1章 数と式 第1節 多項式 1. 多項式の加法減法 2. 多項式の乗法 3. 因数分解 第2節 実数 1. 実数 | ・数を実数まで拡張する意義を理解するとともに、簡単な無理数の四則計算をすることができる。 ・集合と命題に関する基本的な概念を理解している。 | ・集合の考えを用いて論理的に考察し、簡単な命題を証明することができる。 ・問題を解決する際に、すでに学習した計算の方法と関連付け、式を多面的に据えたり | ・事象を数と式の考えを用いて考察する良さを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 |
| 5 | 2. 根号を含む式の計算 第3節 1次不等式 1. 1次不等式 2. 絶対値を含む方程式・不等式 3. 2次方程式 第2章 2次関数 第1節 関数とグラフ | ・2次および3次の乗法公式や因数分解の公式を適切に用いて計算をすることができる。 ・1次不等式の解を求めるとともに、不等式の解の意味や不等式の性質について理解することができる。 | 目的に応じて適切に変形することができる。 ・1次方程式を解く方法や不等式の性質をもとに、1次不等式を解く方法を考察することができる。 ・日常の事象や社会の事象などを数学的にと | ・事象を2次関数を用いて考察する良さを認識している。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。 |
| 6 | 1. 関数 2. 2次関数のグラフ 3. 2次関数の決定 第2節 2次関数の最大最小 1. 2次関数の最大最小 2. 最大最小の応用 | ・2次関数の値の変化やグラフの特徴について理解している。 ・2次関数の最大値・最小値を求めることができる。 | らえ、1次不等式を問題解決に活用することができる。 ・2次関数の式とグラフの関係について多面的に考察することができる。 | |

○2学期

| 月 | 単元 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|----|---|--|---|--|
| 7 | 第3節 2次関数と方程式・不等式 1. 2次不等式 2. x軸との共有点 3. グラフと2次不等式 4. 2次不等式の応用 | ・2次方程式の解と二次関数のグラフとの関係について理解している。 ・2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求めることができる。 | ・二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 | ・2次方程式や2次不等式について、2次関数のグラフを用いて考察しようとしている。 |
| 9 | 第3章 集合と命題 第1節 集合 1. 集合 第2節 命題と証明 1. 命題と集合 2. 逆・裏・対偶 | ・集合と命題に関する基本的な概念を理解している。 ・集合の考え方や法則を適切に用いて考察することができる。 | ・集合の考え方を理解し活用することができる。 ・問題を解決する際に、集合の考え方を適切に活用することができる。 | ・事象を集合と命題の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 |
| 10 | 第4章 図形と計量 第1節 鋭角の三角比 1. 正弦・余弦・正接 2. 三角比の相互関係 第2節 三角比の拡張 1. 三角比の拡張 2. 三角比の相互関係 第3節 正弦余弦定理 1. 正弦定理 2. 余弦定理 3. 定理の応用 | ・命題と条件について理解することができる ・間接証明法について理解している。 ・鋭角の三角比の意味と相互関係について理解している。 ・鋭角の三角比を用いて鈍角の三角比を求める方法を理解することができる。 | ・問題を解決する際に、集合の考え方を適切に活用することができる。 ・三角比に関する定理や公式を導くことができる。 | ・事象の特徴を表やグラフを用いて分析し、考察するよさを認識し、活用しようとしている。 |
| 11 | 第4節 図形と計量 1. 図形の面積 2. 空間図形の計量 第5章 データの分析 第1節 データの整理と分析 1. ヒストグラム 2. データの代表値 3. 散らばりと四分位数 4. 分散と標準偏差 | ・正弦定理や余弦定理を理解している。 ・分散、標準偏差、散布図、相関係数の意味やその使い方を理解している。 | ・図形の構成要素間の関係に着目し、考察することができる。 ・データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察できる。 | ・各分野それぞれにおいて、各分野に関する問題解決において、その過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。 |

○3学期

| 月 | 単元 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|----|--|--|--|--|
| 12 | 第2節データの相関 5. データの相関と散布図 6. 相関係数 7. 相関と因果 数学Ⅱ 第1章 三角関数 第1節 一般角の三角関数 1. 一般角 2. 弧度法 3. 一般角の三角関数 4. 三角関数の相互関係 5. 三角関数のグラフ 6. 三角関数の応用 第2節 三角関数の加法定理 1. 加法定理 2. 2倍角・3倍角の公式 3. 三角関数の合成 第1章 式と証明 ・方程式 第1節 多項式の乗法・除法と分数式 1. 3次の乗法公式 2. 二項定理 3. 多項式の除法 4. 分数式の計算 第2節 式と証明 1. 恒等式 2. 等式の証明 3. 不等式の証明 | <ul style="list-style-type: none"> ・データを表やグラフに整理したり、分散や標準偏差など基本的な統計量を求めたりすることができる。 ・具体的な事象において、仮設検定の考え方を理解している。 ・角の概念を一般角まで拡張する意義や弧度法による角度の表し方について理解している。 ・三角関数の値の変化やグラフの特徴について理解している。 ・三角関数の相互関係などの基本的な性質について理解している。 ・三角関数の加法定理や2倍角の公式、三角関数の合成について理解し、適切に用いることができる。 ・既に学習した3次の乗法公式および因数分解の公式を用いて式の展開や因数分解をすることができる。 ・多項式の除法や分数式の四則計算の方法について理解し計算することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現することができる。 ・実験などを通して主張について判断したり考察できる。 ・三角関数に関する様々な性質について考察するとともに、三角関数の加法定理から新たな性質を導くことができる。 ・三角関数の式とグラフの関係について多面的に考察することができる。 ・式の計算方法を多面的に考察することができる。 ・等式や不等式を論理的に考察し証明することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。 ・事象の特徴を表やグラフを用いて分析し、考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・事象を三角関数の考えを用いて考察するよさを認識し活用しようとしている。 ・事象を式と証明の考えを用いて考察し、問題解決に活用することができる。 ・日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、問題を解決したり、解決の過程を振り返って考察することができる。 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

※評価の方法については、

「知識・技能」「思考・判断・表現」については、定期考査を主とし、実課考査等を加味して評価する。

「主体的に学習に取り組む態度」については、課題提出の状況を主とし、定期考査や授業に取り組む意欲を加味して評価する。

令和6年度 第1学年 数学Ⅰ シラバス

数学Ⅰ

○1学期

| 月 | 単 元 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|--|--|--|--|
| 4 | 数学 A 第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 1. 集合と要素の個数 2. 場合の数 3. 和の法則 | <ul style="list-style-type: none"> ・集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則や積の法則などの数え上げの原則について理解することができる。 ・起こりうる場合の数を漏れなく重複なく数えることができる。 ・事象に応じて、樹形図、和の法則、積の法則を使い分けて場合の数を求めることができる。 ・具体的な事象を基に順列及び組合せの意味を理解し、順列の総数や組合せの総数を求めることができる。 ・確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率や期待値を求めることができる。 ・起こりうる場合を整理し、順列及び組合せの考えを用いて、場合の数を正確に求めることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・事象の構造などに着目し、場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。 ・和の法則や積の法則が場合の数を求めるときの元になっていることに気づくことができる。 ・確率の性質や法則に着目し、確率を求める方法を多面的に考察することができる。 ・公式を用いて順列・組み合わせの総数を正確に求めることができる。 ・確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断し、期待値を意思決定に活用することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・不確定な事象を数学的にとらえることの有用性を認識し、具体的な事象の考察に活用しようとしている。 ・起こりうる場合の数を漏れなく重複なく数え上げることに関心を持ち、調べようとする。 ・場合の数を正確に効率よく数え上げるために、順列組合せの考えを活用しようとする。 ・根元事象の個数の割合を考慮することによって確率が定義されていることに気づき、これを使って確率を求めようとする。 確率に根本的な性質があることに気づき、これを利用して確率を求めようとする。 |
| 5 | 4. 積の法則 第2節 順列・組合せ 1. 順列 | | | |
| 6 | 2. 円順列と重複順列 3. 組み合わせ 4. 同じものを含む順列 | | | |
| 7 | 第3節 確率と期待値 1. 事象と確率 2. 確率の基本性質 3. 期待値 | | | |

○2学期

| 月 | 単元 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|----|--|--|---|---|
| 9 | 第4節 いろいろな確率 1. 独立な試行 2. 反復試行 3. 条件付き確率 | <ul style="list-style-type: none"> 独立な試行の意味を理解し、独立な試行の確率を求めることができる。 条件付確率の意味を理解し、簡単な条件付確率を求めることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 2つの独立な試行における2つの事象が同時に起こる確率は、事象の確率の積になる。この公式を導く過程を考察することができる。 反復試行の確率を導く過程を考察することができる。 条件付確率は、全ての根元事象の起こる確率が等しければ、場合の数の数え上げに帰着して考えられることに気づく。 チェバ・メネラウスの定理を活用することができる。 いろいろな円の性質を的確に表現し、円周角の定理とその逆を使って考察することができる。 基本的な図形の性質を使って作図することができ、作図の方針を説明することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 独立な試行の確率や反復試行の確率について、身近な試行の例を調べようとする。 確率を求める場面が容易に理解できる簡単な場面について、条件付確率を求めようとする。 三角形の五心について考察し、1点で交わることの不思議さに気づき、その意味を調べようとする。 三角形と直線におけるチェバ・メネラウスの定理を理解し活用しようとする。 円に内接する四角形、接線と弦のなす角、方べきの定理など、円の性質の考察にあたって、円周角の定理が有用であることに気づき、この定理を活用しようとする。 基本的な図形の性質などを、いろいろな図形の作図に活用しようとする。 |
| 10 | 第2章 図形の性質 第1節 三角形の性質 1. 直線と角 2. 三角形と五心 3. チェバ・メネラウスの定理 4. 三角形の辺と角の関係 | <ul style="list-style-type: none"> 三角形に関する基本的な性質について理解することができる。 円に関する基本的な性質について理解することができる。 基本的な図形の性質から作図するための方法を理解し、基本的な知識を身に付けることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> チェバ・メネラウスの定理を活用することができる。 いろいろな円の性質を的確に表現し、円周角の定理とその逆を使って考察することができる。 基本的な図形の性質を使って作図することができ、作図の方針を説明することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 三角形の五心について考察し、1点で交わることの不思議さに気づき、その意味を調べようとする。 三角形と直線におけるチェバ・メネラウスの定理を理解し活用しようとする。 円に内接する四角形、接線と弦のなす角、方べきの定理など、円の性質の考察にあたって、円周角の定理が有用であることに気づき、この定理を活用しようとする。 基本的な図形の性質などを、いろいろな図形の作図に活用しようとする。 |
| 11 | 第2節 円の性質 1. 円周角の定理とその逆 2. 円に内接する四角形 3. 円の接線 4. 方べきの定理 5. 2つの円の位置関係 | <ul style="list-style-type: none"> 円に関する基本的な性質について理解することができる。 基本的な図形の性質から作図するための方法を理解し、基本的な知識を身に付けることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> チェバ・メネラウスの定理を活用することができる。 いろいろな円の性質を的確に表現し、円周角の定理とその逆を使って考察することができる。 基本的な図形の性質を使って作図することができ、作図の方針を説明することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 円に内接する四角形、接線と弦のなす角、方べきの定理など、円の性質の考察にあたって、円周角の定理が有用であることに気づき、この定理を活用しようとする。 基本的な図形の性質などを、いろいろな図形の作図に活用しようとする。 |
| 12 | 第3節 作図 1. 作図 | <ul style="list-style-type: none"> 基本的な図形の性質から作図するための方法を理解し、基本的な知識を身に付けることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 基本的な図形の性質を使って作図することができ、作図の方針を説明することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 基本的な図形の性質などを、いろいろな図形の作図に活用しようとする。 |

○3学期

| 月 | 単元 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|--|---|---|---|
| 1 | 第4節 空間図形 1. 平面と直線 2. 多面体 | ・空間図形に関する基本的な性質について理解することができる。 | ・2直線や2平面の位置関係や直線と平面の位置関係、多面体などに関する基本的な性質を数学的な記号を用いて表現することができる。 | ・2直線や2平面の位置関係や直線と平面の位置関係、多面体などに関する基本的な性質を調べようとする。 |
| 2 | 第3章 数学と人間の活動 第1節 数学の歴史・文化 1. 位取り記数法 2. ユークリッドの互除法 (補助教材) 整数の性質ノート | ・数量や図形に関する概念などと人間の活動との関わりについて理解することができる。 ・整数の性質を理解し、活用することができる。 ・余りによる分類のよさを理解し、合同式を用いて問題を解決することができる。 | ・数量や図形に関する概念などを、関心に基づいて発展させ考察することができる。 ・整数に関する基本的な概念を発展させ、様々な場面に応用して問題を解決することができる。 | ・n進法の仕組みや、分数が有限小数または循環小数で表される仕組みに関心を持ち、整数の性質を活用して考察しようとする。 ・整数問題に対して興味・関心を持ち、自ら進んで発展的な見方で考察しようとする。 |
| 3 | ・約数と倍数 ・1次不定方程式 ・2次不定方程式 ・素数の応用 ・合同式 | | | |

※評価の方法については、

「知識・技能」「思考・判断・表現」については、定期考査を主とし、実課考査等を加味して評価する。

「主体的に学習に取り組む態度」については、課題提出の状況を主とし、定期考査や授業に取り組む意欲を加味して評価する。

物理基礎 シラバス

教科：理科 単位：2 使用教科書：高等学校 物理基礎（第一学習社）

| 単元及び学習内容 | 観点別評価規準 | | | 評価の観点及び評価方法 | 実施予定時期 |
|--|---|--|--|-----------------------------|----------------|
| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | | |
| 序章 物理量の測定と扱い方 第1章 運動とエネルギー 第1節 物体の運動 ①速度 探究1 歩行運動の解析 ②加速度 探究2 加速度運動とグラフ ③落下運動 探究3 重力加速度の測定 | 有効数字の意味を理解し、測定値の計算ができる。 変位、速度、加速度の基本的な物理量の定義を理解し、それぞれを式で表すことができる。 等加速度直線運動の特徴を踏まえ、関係式を導くことができる。 落下する物体の運動は、鉛直下向きの加速度をもつ等加速度運動であることを理解する。 | 誤差が生じる原因を理解し、有効数字の桁数を考えることができる。 $x-t$ グラフや $v-t$ グラフから、物体の位置や速度を的確に読み取ることができる。 物体の位置と時間などの関係をもとに、 $x-t$ グラフや $v-t$ グラフ、 $a-t$ を描くことができる。 | 物理の基礎となる物理量の表し方や誤差と有効数字について、意欲的に学習しようとする。 身のまわりの物体の運動に関心を示し、位置や変位、速度を理解しようとする。 速度が変化する日常での事象について意欲的に考え、加速度とはどのような物理量であるかを考察しようとする。 | 授業態度 発問評価 ノート 定期考査 | 4月 5月中旬 |
| 第2節 力と運動の法則 ①さまざまな力 ②力の合成・分解とつりあい ③運動の3法則 ④運動方程式の利用 ⑤摩擦力を受ける運動 ⑥液体や気体から受ける力 | 力の合成・分解を踏まえ、力のつりあいを考えることができる。 作用・反作用とつりあう2力を区別することができる。 摩擦力や空気抵抗を含めた運動について、運動方程式を立てて考察することができる。 | つりあう2力と作用・反作用の2力の違いを説明できる。 運動方程式を用いて、物体がどのような運動をするかを考察できる | 日常での経験と照らし合わせて力のはたらきを観察し、物理学的に理解しようとする。 摩擦力や浮力など、さまざまな力を含めた物体の運動について、物理学的に理解しようとしている。 | 授業態度 発問評価 ノート 定期考査 | 5月下旬 6月中旬 |
| 第3節 仕事と力学的エネルギー ①仕事と仕事率 ②運動エネルギー ③位置エネルギー ④力学的エネルギー 探究4 動摩擦力がする仕事と動摩擦係数 | 運動エネルギーの大きさを計算し、物体がされた仕事との関係についても式を用いて計算できる。 力学的エネルギー保存の法則を導くことができ、式を立てることができる。 | 運動エネルギーを仕事と関連づけて理解し、両者の関係を説明することができる。 種々の物体の運動について、力学的エネルギー保存の法則を適用することができる。 力学的エネルギーが保存されない場合の運動も、式を用いて考えることができる。 | 日常における仕事の違いに留意し、物理における仕事について理解しようとする。 運動エネルギーと位置エネルギーの両者から、エネルギーについて成り立つ関係を主体的に導出しようとする。 | 授業態度 発問評価 ノート 定期考査 | 6月下旬 7月中旬 |
| 第II章 熱 第1節 熱とエネルギー ①熱と温度 探究5 比熱の測定 ②エネルギーの変換と保存 | 熱量と比熱の関係を学習し、熱量の保存についての式を立てることができる。 熱力学の第1法則を用いて、内部エネルギーの変化、外部とやりとりする仕事、熱を計算することができる。 熱機関のしくみを学び、熱効率を計算することができる。 | 比熱と熱量の違いを理解し、熱量の保存を利用して比熱などの測定をすることができる。 熱機関の基本的なしくみを理解し、その特徴を説明することができる。 エネルギーの利用例について、日常のさまざまな事象や現象と結びつけて理解している。 | 熱と仕事の関係について、日常における現象と結びつけて考えようとする。 エネルギーとその移り変わりについて、日常での利用例と関連させて理解しようとする。 | 授業態度 発問評価 ノート 定期考査 | 7月下旬 9月上旬 |
| 第III章 波動 第1節 波の性質 ①波の表し方と波の要素 ②波の重ねあわせと反射 | 単振動と等速円運動の関係を学習し、波の速さや振動数、波長など、基本的な波に関する物理量について理解する。 定常波ができる条件を理解している。 反射の仕方を理解し、反射波の作図をすることができる。 | $y-x$ グラフ、 $y-t$ グラフの違いを理解し、一方のグラフからもう一方のグラフを描くことができる。 定常波の特徴を踏まえ、進行波の波長や節、節の位置などを求めることができる。 自由端、固定端のそれぞれにおいて、正弦波の反射によって定常波が生じることを説明できる。 | 身のまわりには、さまざまな種類の波があることを理解しようとする。 $y-x$ グラフ、 $y-t$ グラフを自らの力で描こうと努力している。 自由端、固定端での反射の仕方を、観察などを通して物理学的に説明しようとする。 | 授業態度 発問評価 ノート 定期考査 | 9月中旬 10月中旬 |
| 第2節 音波 ①音波の性質 ②物体の振動 探究6 弦の固有振動 探究7 気柱の共鳴 | 弦に生じる定常波の波長や振動数を式で計算することができる。 気柱が振動するときの定常波の波長や振動数を式で計算することができる。 | 弦の振動における波長や振動数の関係を式で導くことができる。 閉管と開管の違いを理解し、固有振動で生じる波長と振動数の関係を式で導くことができる。 | 身のまわりの事象や現象と結びつけ、音の伝わるようすや音が波であることの特徴を理解しようとする。 ギターやトランペットなど、楽器から出る音のしくみなどに関心をもち、意欲的に学習に取り組んでいる。 | 授業態度 発問評価 ノート 定期考査 | 10月下旬 12月上旬 |
| 第IV章 電気 第1節 静電気と電流 ①静電気 ②電流と抵抗 ③電流エネルギー 探究8 ジュール熱の測定 | オームの法則を用いて、電流、電圧、抵抗のそれぞれの量を求めることができる。 直列接続、並列接続における合成抵抗の式を導くことができる。 ジュール熱、電力量や電力を計算することができる。 | オームの法則について理解し、電流と電圧の関係を表すグラフから、抵抗を読み取ることができる。 抵抗が直列・並列に接続された回路において、合成抵抗や電流、電圧を求めることができる。 複数の抵抗や豆電球を接続した回路において、消費される電力を求めることができる。 | 抵抗の直列接続、並列接続の特徴について、自身で考察し、式を導こうとする。 ジュール熱について身のまわりの製品と結びつけて理解し、そのしくみを考えようとする。 | 授業態度 発問評価 ノート 定期考査 | 12月中旬 1月 |
| 第2節 電流と磁場 ①磁場 ②モーターと発電機 ③交流と電磁波 | 直線電流、円形電流、ソレノイドを流れる電流がそれぞれつくる磁場のようすを理解する。 電流が磁場から受ける力の特徴、電磁誘導の特徴を知る。 | 右ねじの法則をもとに、それぞれの電流がつくる磁場のようすを考えることができる。 交流発電機のしくみを説明できる。 | 家庭での電気の使用と関連させて、交流の特徴や送電について考えている。 電磁波のさまざまな利用例と関連させ、意欲的に学習している。 | 授業態度 発問評価 ノート 定期考査 | 2月 |
| 第3節 エネルギーとその利用 ①太陽エネルギーと化石燃料 ②原子力エネルギー 探究9 放射線の性質 | 放射線の実体が何かを理解し、人体への影響や利用について知る。 | 原子力発電の基本的なしくみを理解し、どのような課題があるかを知る。 | 日常生活と深く関わる電気エネルギーが、どのようにつくられているのかに関心を示している。 | 授業態度 発問評価 ノート 定期考査 | 3月 |

1年生 生物基礎 シラバス

| 教科 | 理科 | 単位数 | 2 | 教科書（発行者） | i版 生物基礎（啓林館） | |
|--|----|---|--|---|--------------------------|----------------|
| 科目の目標 生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見直しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。 | | | | | | |
| 単元及び学習内容 | | 観点別評価規準 | | | 評価方法 | 実施予定時期 |
| | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | | |
| 第1部 生物の特徴 1章 生物の特徴 生物の多様性 | | 生物の特徴について、生物の共通性と多様性、生物とエネルギーの基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 | 生物の特徴について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を科学的に考察し、表現している。 | 生物の特徴に主体的に関わり、見直しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 | 授業プリント 観察 課題 検査 | 4月 |
| 生命活動とエネルギー | | 生命活動にはエネルギーが必要であり、細胞の生命活動のエネルギーはATPの形で供給されることを理解している。ATPが生命活動にエネルギーを供給するしくみについて理解している。 | 植物がエネルギーを取り入れる方法について説明できる。 | エネルギーと代謝に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 | 授業プリント 観察 課題 検査 | 4月 ～ 5月 |
| 光合成と呼吸 | | 呼吸・光合成の過程でATPが合成されることを理解している。酵素の触媒作用と基質特異性について知り、生体内の化学反応が酵素のはたらきによって進行していることを理解している。また、酵素のはたらきや性質をについて、実験によって確かめる技能を身に付けている。 | 動物や植物のエネルギーの獲得方法を参考にしながら、菌類や細菌がどのようにエネルギーを獲得しているかを調べ、説明できる。 | 呼吸と光合成に関心をもち、主体的に学習に取り組める。積極的に実験操作に関わり、自ら酵素の性質について確かめようとしている。 | 授業プリント 観察 課題 検査 | 5月 |
| 第2部 遺伝子とその働き 2章 遺伝子とその働き 生物と遺伝情報 | | DNAの構造および塩基の相補性、またDNAの塩基配列が遺伝情報となっていることを理解している。 | DNAの構造を示した模式図に基づいて、塩基の相補性などのDNAの構造の特徴を見いだすことができる。 | 遺伝情報とDNAに関心をもち、主体的に学習に取り組める。 | 授業プリント 観察 課題 検査 | 6月 |
| DNA複製 | | DNAが、細胞周期の進行に伴って半保存的に正確に複製され、2つの細胞に分配されることを理解している。体細胞分裂の観察を行い、細胞分裂によって染色体が分配されていることを確かめる技能を身に付けている。 | 複製前後のDNAの模式図を比較し、DNAの正確な複製には塩基の相補性が利用されていることに気づいて説明できる。細胞当たりのDNA量と細胞数の関係のグラフから、特定の条件で細胞周期の各期の長さを推定できることに気づくことができる。 | 遺伝情報の複製と分配に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 | 授業プリント 観察 課題 検査 | 6月 ～ 7月 |
| 遺伝子発現とタンパク質 | | タンパク質のアミノ酸配列は、DNAの塩基配列によって決まることを理解している。個体を構成する細胞は遺伝的に同一であるが、細胞の機能に応じて発現している遺伝子が異なることを理解している。 | コドンが塩基3個の配列で20個のアミノ酸を指定している理由について考え、説明することができる。特定の塩基から作製した人工RNAを用いた実験結果をもとに考え、コドンが指定するアミノ酸を推定することができる。 | 遺伝情報の発現に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 | 授業プリント 観察 課題 検査 | 7月 ～ 9月 |
| 第3部 ヒトの体の調節 3章 神経系と 内分泌系による調節 恒常性と体液 | | 体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解している。自律神経系と内分泌系による情報伝達によって、からだの状態の調節が行われることを理解している。 | チロキシン等の例に、フィードバックがはたらかなくなった場合、どのようなことが起こるかを考え、説明することができる。身近な事例において、からだの状態がどのように変化するかを自律神経系のはたらきに注目して考え、説明することができる。 | 体内での情報伝達と調節に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 | 授業プリント 観察 課題 検査 | 9月 ～ 10月 |
| 血統濃度の調整の仕組み | | ホルモンと自律神経のはたらきによって、体内環境が維持されていることを理解している。血液凝固のはたらきについて理解している。 | 食事の前後での血糖濃度とインスリン濃度の変化のグラフから、血糖濃度とインスリンのはたらきとの関係に気づき、説明することができる。血糖濃度とインスリン濃度の変化の1日のグラフを見て、健康な人と糖尿病患者の血糖濃度やインスリン濃度の変化の違いについて考察することができる。 | 体内環境の維持のしくみに関心をもち、主体的に学習に取り組める。 | 授業プリント 観察 課題 検査 | 10月 |
| 4章 免疫 生体防御の概要 獲得免疫の概要 | | 自然免疫・適応免疫のしくみと、それにはたらく細胞の役割を理解している。免疫記憶のしくみや、免疫のはたらきが低下したり過敏になったりすることで起こる病気、免疫のしくみを利用した医療について理解している。好中球の観察を行い、顕微鏡を用いて好中球の存在を確認する技能を身に付けている。 | 抗原が体内に侵入したときの抗体産生量の変化を示したグラフから、同じ感染症に再びかかりにくくなる理由を考察することができる。免疫の学習内容をもとに、未知の病原体に対する免疫のはたらきを考察し、自分の考えを理由を含めて説明することができる。 | 免疫のはたらきに関心をもち、主体的に学習に取り組める。 | 授業プリント 観察 課題 検査 | 11月 |
| 第4部 生物の多様性と生態系 5章 植生と遷移 遷移の過程 | | いろいろな植生とその特徴を理解している。植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因について理解している。 | 遷移の過程を示した資料をもとに、遷移の過程で裸地から低木林に移り変わる要因、植生の樹種が交代する要因について考察し、説明できる。二次遷移が一次遷移に比べて速く進行する理由を考察し、説明することができる。 | 植生と遷移に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 | 授業プリント 観察 課題 検査 | 12月 |
| 遷移と世界のバイオーム 日本のバイオーム | | 世界および日本に見られるさまざまなバイオームが、気温と降水量の違いに起因して成立していることを理解している。日本に分布するバイオームについて理解している。 | 地球の気温が上昇すると、バイオームの分布がどのように変化するかを推測することができる。特定の場所の植生が、時間の経過とともにどのように変化するかを推測し、説明することができる。 | 植生の分布とバイオームに関心をもち、主体的に学習に取り組める。 | 授業プリント 観察 課題 検査 | 1月 |
| 6章 生態系とその保全 種多様性と食物連鎖 | | 生態系がどのように構成されているのかを理解している。生態系において種多様性が維持されるしくみを理解している。 | 生態系における個体数の変化を調べた実験結果に基づき、ある生物が種多様性に対して果たす役割を考察し、説明できる。 | 生態系と生物の多様性に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 | 授業プリント 観察 課題 検査 | 2月 |
| 生態系のバランスと変動 | | 生態系がもつ復元力について理解している。人間活動が生態系に及ぼす影響について知り、生態系の保全の重要性について理解している。 | 生活排水の流入による生物の個体数と水質の変化のグラフをもとに、自然浄化のしくみを考察し、説明できる。外来生物の移入前後の在来魚の漁獲量の変化を示した資料をもとに、外来生物が在来魚に与えた影響を考察し、説明できる。 | 生態系のバランスと保全に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 | 授業プリント 観察 課題 検査 | 3月 |

第1学年 保健体育科 科目「体育」 シラバス

科目の目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成する。

- (1)運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、その技能を身に付けるようにする。
- (2)生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3)運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

| 内容のまとめ | 単元(ア)(イ)レベル又は小単元(ウ)(エ)レベル | 配当時間 | 評価の観点 | | | 観点別評価規準 | 評価方法 | 実施予定 |
|--------|--|------|-------|---|---|--|--------------------------|------|
| | | | 知 | 思 | 態 | | | |
| OT | オリエンテーション 旭野体操 体づくり運動 | 7 | ○ | | ◎ | 主 ・仲間と課題を伝え合うなど、互いに助け合おうとしている。 | ・観察 | 4月 |
| I期 | 選択領域Ⅰ 球技Ⅰ、球技Ⅱ、球技Ⅲより1領域選択 ただし、球技Ⅰあるいは球技Ⅱからの選択は2つまでとする。 | 20 | ◎ | ○ | ○ | 知 ・器械運動(マット運動)では、技群、グループ系統性の名称があり、それぞれに技能向上のポイントがあることを理解している。 ・新たに学習する基本的な技を滑らかに安定して、一連の動きとして演技している。 ・陸上、水泳では記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、それぞれの技能向上のポイントを理解している。 ・球技では各型の各目において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることを理解している。 ・安定したボール操作と空間を作り出す動きによって攻防を展開している。 ・役割に応じたボール操作や安定した道具の操作を実践することができる。 | ・観察 ・スキルテスト ・学習カード | 5月 |
| | | | ○ | ◎ | ○ | 思 ・選択した運動について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善点を理由とともに他者に伝えることができる。 | | 6月 |
| II期 | 選択領域Ⅱ 水泳・陸上・器械運動より1領域選択 体育理論 スポーツの始まりと変遷文化としてのスポーツ | 12 | ○ | ◎ | ○ | 主 ・自主的に学習に取り組もうとしている。 ・仲間に助言したりして、互いに助け合い、教え合おうとしている。 | ・学習カード ・観察 | 7月 |
| | | | ◎ | | | 知 スポーツが娯楽から始まり、競技へと変化し、現代では多様な価値を持つことを理解している。 | | 9月 |
| III期 | 領域選択Ⅲ 柔道、球技Ⅰ、球技Ⅱ、球技Ⅲより1領域選択 ただし、球技Ⅰあるいは球技Ⅱからの選択は2つまでとする。 体育理論 オリンピックとパラリンピックの意義 スポーツが経済に及ぼす効果 | 20 | ◎ | ○ | ○ | 知 ・柔道では相手の動きの変化に応じやすい自然体で組もうとしている。 ・相手の投げ技に応じて受け身をとることができる。 ・球技では各型の各目において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることを理解している。 ・安定したボール操作と空間を作り出す動きによって攻防を展開している。 ・役割に応じたボール操作や安定した道具の操作を実践することができる。 ・試合や競技会の運営方法を理解している。 | ・観察 ・スキルテスト ・学習カード | 10月 |
| | | | | | | 思 ・選択した運動について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善点を理由とともに他者に伝えることができる。 | | 11月 |
| | | | | | | 主 ・自主的に学習に取り組もうとしている。 ・仲間に助言したりして、互いに助け合い、教え合おうとしている。 | | 12月 |
| IV期 | 領域選択Ⅳ 柔道、球技Ⅰ、球技Ⅱ、球技Ⅲ、ダンスより1領域選択 ただし、球技Ⅰあるいは球技Ⅱからの選択は2つまでとする。 | 20 | ◎ | ○ | ○ | 知 ・柔道では相手の動きの変化に応じやすい自然体で組もうとしている。 ・相手の投げ技に応じて受け身をとることができる。 ・球技では各型の各目において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることを理解している。 ・安定したボール操作と空間を作り出す動きによって攻防を展開している。 ・役割に応じたボール操作や安定した道具の操作を実践することができる。 ・試合や競技会の運営方法を理解している。 | ・観察 ・スキルテスト ・学習カード | 1月 |
| | | | | | | 思 ・選択した運動について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善点を理由とともに他者に伝えることができる。 | | 2月 |
| V期 | 領域選択Ⅴ 柔道、球技Ⅰ、球技Ⅱ、球技Ⅲより1領域選択 ただし、球技Ⅰあるいは球技Ⅱからの選択は2つまでとする。 体育理論 スポーツの高潔さとドーピング スポーツと環境 | 20 | ○ | ◎ | ○ | 主 ・自主的に学習に取り組もうとしている。 ・仲間に助言したりして、互いに助け合い、教え合おうとしている。 | ・学習カード ・観察 | 3月 |
| | | | ◎ | | | 主 現代スポーツの意義や価値についての学習に自主的に取り組もうとしている。 | | |

第1学年 保健体育科 科目「保健」 シラバス

科目の目標

- 保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。
- (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。
 - (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
 - (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

| 単元 | 小単元 | 配当時間 | 評価の観点 | | | 観点別評価規準 | 評価方法 | 実施予定 | | |
|---------------------|-----------------|------|-------|---|---|--|------------------------------------|---|------------------------------------|------|
| | | | 知 | 思 | 態 | | | | | |
| 現代社会と健康 | 1, 健康の考え方や成り立ち | 1 | ◎ | | ○ | 国民の健康課題や健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていること。また、健康は、様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。健康の保持増進には、ヘルスプロモーションの考え方を踏まえた個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりが関わることについて理解している。 感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること。その予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることについて理解している。 健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であることについて理解している。 喫煙と飲酒は、生活習慣病などの要因になること、また、薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと。それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であることについて理解している。 精神疾患の予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠のとれた生活を実践するとともに、心身の調和に気付くことが重要であること。また、疾病の早期発見及び社会的な対策が必要であることについて理解している。 | ・観察 ・ノート ・ワークシート ・ペーパーテスト | 4月 | | |
| | 2, 私たちの健康のすがた | 1 | | ◎ | ○ | | | 5月 | | |
| | 3, 生活習慣病の予防と回復① | 1 | ◎ | | | | | 現代社会と健康における事象や情報などについて、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見しようとしている。 国民の健康課題について、我が国の健康水準の向上や疾病構造の変化に関するデータや資料に基づいて分析し、生活の質の向上に向けた課題解決の方法をヘルスプロモーションの考え方を踏まえて整理し、他者に伝えようとしている。 喫煙、飲酒、薬物乱用防止について、我が国のこれまでの取り組みを個人への働きかけと社会環境への対策の面から分析したり、諸外国と比較したりして、防止を評価している。 現代社会における自他の健康の維持向上へ向けて、多角的なもの見方から考察を深め、他者に意見を伝えることができる。 | ・観察 ・ノート ・ワークシート ・ペーパーテスト | 6・7月 |
| | 3, 生活習慣病の予防と回復② | 1 | | ◎ | ○ | | | | | 9月 |
| | 4, がんの原因と予防① | 1 | ◎ | | ○ | | | | | 10月 |
| | 4, がんの原因と予防② | 1 | | | ◎ | | | | | |
| | 5, がんの治療と回復③ | 1 | ◎ | | | | | | | 11月 |
| | 5, がんの治療と回復④ | 1 | | ◎ | ○ | | | | | |
| | 6, 運動と健康 | 1 | | ○ | ◎ | | | | | 12月 |
| | 7, 食事と健康 | 1 | ○ | | ◎ | | | | | |
| | 8, 休養・睡眠と健康 | 1 | ○ | | ◎ | 1月 | | | | |
| | 9, 喫煙と健康 | 1 | | ◎ | | | | | | |
| | 10, 飲酒と健康 | 1 | ◎ | | | 2・3月 | | | | |
| | 11, 薬物乱用と健康① | 1 | ◎ | | | | | | | |
| | 11, 薬物乱用と健康② | 1 | | ◎ | ○ | 主 | | | | |
| | 12, 精神疾患の特徴 | 1 | ◎ | | | | | | | |
| | 13, 精神疾患の予防① | 1 | | ◎ | | 知 | | | | |
| | 13, 精神疾患の予防② | 1 | | ○ | ◎ | | | | | |
| | 14, 精神疾患からの回復 | 1 | | ◎ | | 思 | | | | |
| 15, 現代の感染症 | 1 | ○ | | ◎ | | | | | | |
| 16, 感染症の予防① | 1 | | ◎ | | 主 | | | | | |
| 16, 感染症の予防② | 1 | | | ◎ | | | | | | |
| 17, 性感染症・エイズとその予防 | 1 | ◎ | ○ | | 主 | | | | | |
| 18, 健康に関する意思決定・行動選択 | 1 | | | ◎ | | | | | | |
| 19, 健康に関する環境づくり | 1 | | ◎ | ○ | | | | | | |
| 安全な社会生活 | 1, 事故の現状と発生要因 | 1 | ◎ | | | 知 | ・観察 ・ノート ・ワークシート ・ペーパーテスト | 1月 | | |
| | 2, 安全な社会の形成 | 1 | | ◎ | ○ | | | | | |
| | 3, 交通における安全 | 1 | | ◎ | ○ | | | | | |
| | 4, 応急手当の意義とその基本 | 1 | ◎ | | | 思 | ・観察 ・ノート ・ワークシート ・ペーパーテスト | 2・3月 | | |
| | 5, 日常的な応急手当 | 1 | | ○ | ◎ | | | | | |
| | 6, 心肺蘇生法① | 1 | ◎ | | ○ | | | | | |
| 6, 心肺蘇生法② 実習 | 1 | ○ | | ◎ | 主 | ・観察 ・ノート ・ワークシート | | | | |
| | | | | | | | | | | |

令和6年度 英語コミュニケーションⅠ シラバス

| 科目 | 単位数 | 学年・類型 | 使用教材名 | | 発行者 |
|-----|-----|-------|-------|--|----------------------|
| ECⅠ | 3 | 1年全員 | 教科書 | Heartening ECⅠ | 桐原書店 |
| | | | 副教材 | Heartening 学習ノート Heartening Advanced Exercises システム英単語 | 桐原書店 桐原書店 駿台文庫 |

1 観点別評価規準と目標

| | 聞くこと | 読むこと | 話すこと（やり取り） | 話すこと（発表） | 書くこと |
|---------------------------|---|---|--|--|--|
| 学年ごとの CAN Dオリ スト | 家庭や学校における身近な話題についての情報や説明を聞き取ったり、相手からの指示を理解したりすることができる。 | 家庭や学校における身近な話題についての情報や説明を読み取ったり、相手からの指示を理解したりすることができる。 | 家庭や学校における身近な話題について、聞き手を意識しながら、文法的な間違いを恐れずに会話をしたり、説明や理由を付けながら意見の交換をしたりすることができる。 | 日常的话题や、社会的な話題について、理由や具体例を交えながら、90秒程度で自分の意見を発表できる。 | 家庭や学校生活などの日常生活の中で聞いたこと、学んだことや体験したことの概要や要点、その話題に関する意見やその理由を50語程度で書くことができる。 |
| 科目の 目標 | ア 日常的话题について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。 イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。 | ア 日常的话题について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。 | ア 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたこと、読んだことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に注意して話して伝え合うことができるようにする。 | ア 日常的话题について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に注意して話して伝えることができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたこと、読んだことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に注意して話して伝えることができるようにする。 | ア 日常的话题について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたこと、読んだことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。 |

2 学習方法

(1) 予習

- ・各レッスンの前に『学習ノート』に取り組む
- ・システム英単語小テストの学習をする

(2) 授業

- ・毎授業の初めに、システム英単語小テスト行う
- ・ハンドアウトを使って学習する
- ・各レッスンの終わりに、Activity Plusに取り組む

(3) 復習

- ・ハンドアウトを使って、授業内容を確認する
- ・『Advanced Exercises』を使って、問題を解く

3 学習内容及評価方法

| 単元及び学習内容 | 配当時間 | 評価の観点 | 内容のまとめ | | | | 観点別評価規準 | 評価方法 | | | | | | | | | | 実施予定時期 | | | | |
|---|------|-------|--------|------|--------|------|---|---|-------|-------------|--------|-------------------|-----------|------|------|--------|------------|--------|---------|--------------|--|--|
| | | | 聞くこと | 読むこと | 話・やり取り | 話・発表 | | 書くこと | 活動の観察 | ワークシート・ノート等 | インタビュー | ディスカッション・ディスカッション | プレゼンテーション | スピーチ | エッセイ | ライティング | 左記以外の実技テスト | | 振り返りシート | 定期考査 | | |
| Lesson 1 - Bringing Out the Best in Himself 【単元の目標】 ・英語を学習しながらNBA選手になる夢を実現した八村塁選手の半生を描いた物語文を読み、自主・自立の精神を養い、他者との協力を重んずる態度を養う。 | 14 | 知 | ○ | ○ | | ○ | ・現在形/過去形/進行形や未来表現について、基本的な意味や働きを理解している。 | | | | | | | | | | | | | 4月 5月上旬 | | |
| | | 思 | | ○ | ○ | ○ | ・読み取った内容に基づき、任意のスポーツ選手について50語程度で簡潔に表現している。 | ○ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 態 | | | | ○ | ○ | ・発表後、自己の発表を振り返り、改善点を見つけるなどして、自らの学習を自覚的に捉えようとしている。 | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | |
| Lesson 2 - Hold On, Anzu! 【単元の目標】 ・捨てられた小型犬が警察犬として活躍するまでを述べた物語文、個人の価値を尊重し、その能力を伸ばす精神を培い、生命を尊ぶ態度を養う。 | 2 | 知 | ○ | ○ | | ○ | ・現在完了形、現在完了進行形 および過去完了形、過去完了進行形の文の特徴やきまりを理解している。 | | | | | | | | | | | | | 5月下旬 6月中旬 | | |
| | | 思 | | ○ | | | ・読み取った内容に基づき、動物について50語程度で簡潔に表現している。 | ○ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 態 | | | | ○ | | ・発表後、自己の発表を振り返り、改善点を見つけるなどして、自らの学習を自覚的に捉えようとしている。 | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | |
| Lesson 3 - We Can Make a Difference 【単元の目標】 ・世界の人々が受けている気候変動の影響と、問題への取り組みについての説明文・意見文を読み、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養う。 | 14 | 知 | ○ | ○ | | ○ | ・助動詞について、基本的な意味や働きを理解している。 | | | | | | | | | | | | | 5月下旬 6月中旬 | | |
| | | 思 | | ○ | ○ | ○ | ・読み取った内容に基づき、環境問題の解決策について50語程度で簡潔に表現している。 | ○ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 態 | | | | ○ | ○ | ・発表後、自己の発表を振り返り、改善点を見つけるなどして、自らの学習を自覚的に捉えようとしている。 | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | |
| Lesson 4 - Creative Problem Solving 【単元の目標】 ・人間の心理や行動の特徴を利用し、創造的にアイデアをなくす方法を述べた論証文。公共の精神に基づき、主体的に社会に参画する態度を養う。 | 2 | 知 | ○ | ○ | | ○ | ・さまざまな受動態および前置詞の文の特徴やきまりを理解している。 | | | | | | | | | | | | | 7月 9月 | | |
| | | 思 | | ○ | | | ・読み取った内容に基づき、問題の解決策について50語程度で簡潔に表現している。 | ○ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 態 | | | | ○ | | ・発表後、自己の発表を振り返り、改善点を見つけるなどして、自らの学習を自覚的に捉えようとしている。 | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | |
| Lesson 5 - Canned Bread to Feed the World 【単元の目標】 ・食料廃棄問題の解決と飢餓地域への支援を可能とするシステムを構築したパン・アキモの取り組みを述べた物語文を読み、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する精神を養う。 | 16 | 知 | ○ | ○ | | ○ | ・不定詞、SVO-to do、知覚動詞、使役動詞について、基本的な意味や働きを理解している。 | | | | | | | | | | | | | 10月下旬 11月 | | |
| | | 思 | | ○ | ○ | ○ | ・読み取った内容に基づき、食料廃棄問題の解決策について50語程度で簡潔に表現している。 | ○ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 態 | | | | ○ | ○ | ・発表後、自己の発表を振り返り、改善点を見つけるなどして、自らの学習を自覚的に捉えようとしている。 | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | |
| Lesson 6 -Could We Have a Real Jurassic Park? 【単元の目標】 ・恐竜再生の可能性について論じた説明文、幅広い教養を身に付け、真理を求める態度や道徳心を養う。 | 2 | 知 | ○ | ○ | | ○ | ・動名詞およびSVC(分詞)の文の特徴やきまりを理解している。 | | | | | | | | | | | | | 12月 2月 | | |
| | | 思 | | ○ | | | ・読み取った内容に基づき、科学技術の可能性について50語程度で簡潔に表現している。 | ○ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 態 | | | | ○ | | ・発表後、自己の発表を振り返り、改善点を見つけるなどして、自らの学習を自覚的に捉えようとしている。 | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | |
| Lesson 7 - Behind the Price Tag 【単元の目標】 ・安価な衣類製造プロセスにおける労働者の実態を述べた説明文と、問題に対して対立する二者の意見文を読み、正義と責任を重んずるとともに、主体的に社会の形成に参画する態度を養う。 | 16 | 知 | ○ | ○ | | ○ | ・分詞、分詞構文について、基本的な意味や働きを理解している。 | | | | | | | | | | | | | 12月 2月 | | |
| | | 思 | | ○ | ○ | ○ | ・読み取った内容に基づき、消費者の責任について50語程度で簡潔に表現している。 | ○ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 態 | | | | ○ | ○ | ・発表後、自己の発表を振り返り、改善点を見つけるなどして、自らの学習を自覚的に捉えようとしている。 | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | |
| Lesson 8 - The World's Winter Festivals 【単元の目標】 ・世界の冬の祭りを比較し、その共通性について論じた説明文。日本をはじめ他国の伝統や文化を尊重する精神を培う。 | 2 | 知 | ○ | ○ | | ○ | ・比較に関する表現および従属接続詞の文の特徴やきまりを理解している。 | | | | | | | | | | | | | 3月 | | |
| | | 思 | | ○ | | | ・読み取った内容に基づき、世界の祭りについて50語程度で簡潔に表現している。 | ○ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 態 | | | | ○ | | ・発表後、自己の発表を振り返り、改善点を見つけるなどして、自らの学習を自覚的に捉えようとしている。 | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | |
| Lesson 9 - Talking Trees 【単元の目標】 ・木々が大きな森となって繁栄するために互いに協力している科学的事実を述べた説明文を読み、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養う。 | 16 | 知 | ○ | ○ | | ○ | ・関係代名詞、関係副詞について、基本的な意味や働きを理解している。 | | | | | | | | | | | | | 3月 | | |
| | | 思 | | ○ | ○ | ○ | ・読み取った内容に基づき、植物や動物のコミュニケーション方法について50語程度で簡潔に表現している。 | ○ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 態 | | | | ○ | ○ | ・発表後、自己の発表を振り返り、改善点を見つけるなどして、自らの学習を自覚的に捉えようとしている。 | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | |
| Lesson 10 - Capturing the Reality of the World 【単元の目標】 ・フォトジャーナリスト安田菜津紀氏が仕事を通じて学んだ使命感について述べた物語文を読み、主体的に社会の形成に参画し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う。 | 2 | 知 | ○ | ○ | | ○ | ・仮定法について、基本的な意味や働きを理解している。 | | | | | | | | | | | | | 3月 | | |
| | | 思 | | ○ | | | ・読み取った内容に基づき、貧困国の子どもたちの状況を知り、自身ができることについて50語程度で簡潔に表現している。 | ○ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 態 | | | | ○ | | ・発表後、自己の発表を振り返り、改善点を見つけるなどして、自らの学習を自覚的に捉えようとしている。 | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | |
| Extra Activities 【単元の目標】 ・かるたゲームを通して、ことわざについて学ぶ。 | 11 | 知 | ○ | ○ | | ○ | ・文法を理解し、正しい英文を書くことができる。 | | | | | | | | | | | | | 3月 | | |
| | | 思 | | ○ | ○ | ○ | ・読み取った内容に基づき、ことわざについて表現している。 | ○ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 態 | | | | ○ | ○ | ・発表後、自己の発表を振り返り、改善点を見つけるなどして、自らの学習を自覚的に捉えようとしている。 | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | |

令和6年度 論理・表現 I シラバス

| 科目 | 単位数 | 学年・類型 | 教科書名 | 発行者 |
|---------|-----|-------|---|-----|
| 論理・表現 I | 2 | 1年全員 | Vision Quest English Logic and Expression I Advanced | 啓林館 |
| | | | Vision Quest English Logic and Expression I Advanced WORKBOOK | 啓林館 |
| | | | Vision Quest 総合英語 Ultimate 2nd | |

1 観点別評価規準と目標

| | 話すこと（やり取り） | 話すこと（発表） | 書くこと |
|---|---|---|---|
| 学年ごとの C A N ー D O R ィ ス ト | 家庭や学校における身近な話題について、聞き手を意識しながら、文法的な間違いを恐れずに会話をしたり、説明や理由を付けながら意見の交換をしたりすることができる。 | 日常な話題や、社会的な話題について、理由や具体例を交えながら、90秒程度で自分の意見を発表できる。 | 家庭や学校生活などの日常生活の中で聞いたり読んだりしたこと、学んだことや体験したこと、の概要や要点、その話題に関する意見やその理由を50語程度で書くことができる。 |
| 科目の 目標 | ア 日常な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝え合うことができるようにする。 | ア 日常な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。 | ア 日常な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。 |

2 学習方法

(1) 予習

- ・ Workbook の問題を解いてくる
- ・ 暗唱例文テストの準備
- ※教科書 Example Bank(p 135~)から Lesson 単位で5問出題。全文書けるように。

(2) 授業

- ・ Focus on Listening もしくは暗唱例文テスト
- ・ 教科書、Workbook を使って学習する
- ・ 学期に1回、Extra Activity に挑戦

(3) 復習

- ・ 授業でやったことを振り返る
- ・ Workbook をもう一度解く

3 学習内容と評価方法

| 単元及び学習内容 | 配当時間 | 評価の観点 | 内容のまとめり | | | | | 観点別評価規準 | 評価方法 | | | | | | | 実施予定時期 | | | |
|---|------|-------|---------|------|--------|------|--|---------|-------|-------------|--------|----------|-----------|------|--------|--------|------|-------|-------------------|
| | | | 聞くこと | 読むこと | 話・やり取り | 話・発表 | 書くこと | | 活動の観察 | ワークシート・ノート等 | インタビュー | ディスカッション | プレゼンテーション | スピーチ | ライティング | | エッセイ | 実技テスト | 筆記以外の振り返りシート |
| <p>"I want to introduce my new friend."</p> <p>[話題] 紹介: 初対面で行われる自然な会話や学校の習慣を紹介する表現を学ぶ。[文法] 文の種類: 様々な疑問文や命令文、感嘆文を適切に作り、それに応答する。また、単文、重文、複文の構成を理解し、まとまのある文を用いて表現する。</p> | 4 | 知 | | | | | 文の種類や単文、重文、複文などの構成を理解している。 | | | | | | | | | | | ○ | 4月 上 中 旬 |
| | | 思 | ○ | | ○ | | 目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で適切に表現したり伝え合ったりしている。 | ○ | | | | | | | | | | ○ | |
| | | 態 | | | | ○ | 外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考え、気持ちなどを話したり書いたりして表現しようとしている。 | | | | | | | | | | | ○ | |
| <p>"How about joining our group?"</p> <p>[話題] 学校生活: 留学生との会話を通して、学校生活で行われる生徒同士のやり取りの表現を学ぶ。[文法] 文型と動詞: 5つの文型と <There + be 動詞 + 主語> の構文を理解し、文を組み立てる。また、注意すべき自動詞と他動詞を使い分ける。</p> | 4 | 知 | | | | | 5つの文型と自動詞・他動詞の使い分けを理解している。 | | | | | | | | | | | ○ | 4月 下 旬 |
| | | 思 | ○ | | ○ | | 目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で適切に表現したり伝え合ったりしている。 | ○ | | | | | | | | | | ○ | |
| | | 態 | | | | ○ | 外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考え、気持ちなどを話したり書いたりして表現しようとしている。 | | | | | | | | | | | ○ | |
| <p>"I'm planning a day trip this weekend."</p> <p>[話題] 旅行・観光: 旅行の計画や予定を尋ねたり伝えたりする表現を学ぶ。[文法] 時制: 基本時制の構造と概念を理解し、伝えたいことを適切な時制を用いて伝える。</p> | 4 | 知 | | | | | 基本時制の構造と概念を理解している。 | | | ○ | ○ | | | | | | | ○ | 5月 上 中 旬 |
| | | 思 | ○ | | ○ | | 目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で適切に表現したり伝え合ったりしている。 | ○ | | | | | | | | | | ○ | |
| | | 態 | | | | ○ | 外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考え、気持ちなどを話したり書いたりして表現しようとしている。 | | | | | | | | | | | ○ | |
| <p>"Have you ever tried it before?"</p> <p>[話題] 趣味・関心: 関心のあることについてその経験を尋ねたり伝えたりする表現を学ぶ。[文法] 完了形: 現在・過去・未来の完了形の概念を理解し、それぞれの用法を区別する。また共に使える語句を使って適切に文を作ったり表現したりする。</p> | 5 | 知 | | | | | 完了形の概念と使い方を理解している。 | | | ○ | | | | | | | | ○ | 5月 下 旬 |
| | | 思 | ○ | | ○ | | 場面、状況などに応じて、趣味や関心のあることについて、外国語で適切に表現したり伝え合ったりしている。 | ○ | | | | | | | | | | ○ | |
| | | 態 | | | | ○ | 外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考え、気持ちなどを話したり書いたりして表現しようとしている。 | | | | | | | | | | | ○ | |
| <p>"What do you want to do after school?"</p> <p>[話題] 将来・進路: 将来や進路について、自分の考えや気持ちを伝えたり、相手に尋ねたりする表現を学ぶ。[文法] 助動詞: 様々な助動詞の意味と用法を理解し、適切に使い分けて表現する。</p> | 5 | 知 | | | | | 助動詞の意味と用法を理解している。 | | | ○ | | | | | | | | ○ | 6月 上 旬 |
| | | 思 | ○ | | ○ | | 場面、状況などに応じて、将来や進路について、外国語で適切に表現したり伝え合ったりしている。 | ○ | | | | | | | | | | ○ | |
| | | 態 | | | | ○ | 外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考え、気持ちなどを話したり書いたりして表現しようとしている。 | | | | | | | | | | | ○ | |
| <p>"Did you hear about the new shop?"</p> <p>[話題] 日常生活: 日常生活で発話される生徒同士の自然な会話の流れや自分の感情や物事を表す表現を学ぶ。[文法] 受動態: 受動態を用いた様々な文の構造や意味を理解し、必要に応じて使い分け、適切に伝える。</p> | 5 | 知 | | | | | 受動態と能動態の構造と使い分けを理解している。 | | | ○ | | | | | | | | ○ | 6月 下 旬 |
| | | 思 | ○ | | ○ | | 場面、状況などに応じて、日常的な話題について、外国語で適切に表現したり伝え合ったりしている。 | ○ | | | ○ | | | | | | | ○ | |
| | | 態 | | | | ○ | 外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考え、気持ちなどを話したり書いたりして表現しようとしている。 | | | | | | | | | | | ○ | |
| <p>"I'm happy to have you with us."</p> <p>[話題] 交流・交際: 誕生日会を舞台に繰り広げられる友だち同士の自然な会話のやり取りから、感情を表す様々な表現を学ぶ。[文法] 不定詞: 様々な不定詞の用法を学び、詳細な情報を伝える。</p> | 6 | 知 | | | | | 様々な不定詞の用法を理解している。 | | | ○ | | | | | | | | ○ | 7月 ・ 9月 |
| | | 思 | ○ | | ○ | | 場面、状況などに応じて、日常的な話題について、外国語で適切に表現したり伝え合ったりしている。 | ○ | | | | | | | | | | ○ | |
| | | 態 | | | | ○ | 外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考え、気持ちなどを話したり書いたりして表現しようとしている。 | | | | | | | | | | | ○ | |
| <p>"What sport do you like playing?"</p> <p>[話題] スポーツ・健康: スポーツチームについて話す会話からチームに誇ったり、見学を勧めたりする表現を学ぶ。[文法] 動名詞: 動名詞の様々な用法を学び、動名詞句を使用した多様な文で伝える。</p> | 5 | 知 | | | | | 動名詞の様々な用法を理解している。 | | | ○ | | | | | | | | ○ | 10月 |
| | | 思 | ○ | | ○ | | 場面、状況などに応じて、スポーツについて、外国語で適切に表現したり伝え合ったりしている。 | ○ | | | ○ | | | | | | | ○ | |
| | | 態 | | | | ○ | 外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考え、気持ちなどを話したり書いたりして表現しようとしている。 | | | | | | | | | | | ○ | |
| <p>"Digital media has come a long way."</p> <p>[話題] メディア・コミュニケーション: 留学生とのやり取りから、メディアを使用したコミュニケーションについて、意見を述べたり、情報を加えて詳しく説明する表現を学ぶ。[文法] 分詞: 名詞を修飾する分詞の用法や補語になる用法、また分詞構文や付帯状況を表す分詞を用いて表現する。</p> | 6 | 知 | | | | | 分詞の名詞を修飾する用法や補語になる用法や分詞構文の構造を理解している。 | | | ○ | | | | | | | | ○ | 11月 |
| | | 思 | ○ | | ○ | | 場面、状況などに応じて、社会的な話題について、外国語で適切に表現したり伝え合ったりしている。 | ○ | | | | | | | | | | ○ | |
| | | 態 | | | | ○ | 外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考え、気持ちなどを話したり書いたりして表現しようとしている。 | | | | | | | | | | | ○ | |
| <p>"That's why I decided to go back."</p> <p>[話題] 文化・異文化理解: 日本特有のことばや文化、また異文化について紹介したり、その違いを述べる表現を学ぶ。[文法] 関係詞: 関係詞を用いて語句を限定したり補足説明を加えたりする。また、複合関係詞を用いて譲歩の意味を表す。</p> | 7 | 知 | | | | | 関係代名詞や関係副詞の役割や用法を理解している。 | | | ○ | | | | | | | | ○ | 12月 |
| | | 思 | ○ | | ○ | | 場面、状況などに応じて、文化について、外国語で適切に表現したり伝え合ったりしている。 | ○ | | | | | | | | | | ○ | |
| | | 態 | | | | ○ | 外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考え、気持ちなどを話したり書いたりして表現しようとしている。 | | | | | | | | | | | ○ | |
| <p>"Which do you prefer, cheaper beans or more expensive ones?"</p> <p>[話題] 国際問題: フェアトレード(公正取引)について話される会話から、物事を提案したり、相手の発言を称賛する仕方を学ぶ。[文法] 比較: 比較に関する様々な用法と表現を理解し、物事の状態を分かりやすく説明する。</p> | 6 | 知 | | | | | 比較の役割や用法を理解している。 | | | ○ | | | | | | | | ○ | 1月 |
| | | 思 | ○ | | ○ | | 場面、状況などに応じて、国際問題について、外国語で適切に表現したり伝え合ったりしている。 | ○ | | | ○ | | | | | | | ○ | |
| | | 態 | | | | ○ | 外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考え、気持ちなどを話したり書いたりして表現しようとしている。 | | | | | | | | | | | ○ | |
| <p>"If I were you, I'd see it as a positive."</p> <p>[話題] 社会問題: 日本の社会問題について話されるやり取りから、自分の意見や考えを伝えたり、相手の助言を求めたりする表現を学ぶ。[文法] 仮定法: 仮定法を用いて、事実と違うことや実際には起こりえないことを述べる。</p> | 6 | 知 | | | | | 仮定法を用いた構文の意味や構造を理解している。 | | | ○ | | | | | | | | ○ | 2・ 3月 |
| | | 思 | ○ | | ○ | | 場面、状況などに応じて、社会的な問題について、外国語で適切に表現したり伝え合ったりしている。 | ○ | | | | | | | | | | ○ | |
| | | 態 | | | | ○ | 外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考え、気持ちなどを話したり書いたりして表現しようとしている。 | | | | | | | | | | | ○ | |

家庭基礎シラバス

| | | | | |
|---------|-----|----|----------------|------|
| 教科・科目 | 単位 | 学年 | 教科書 | 発行者 |
| 家庭・家庭基礎 | 2単位 | 1年 | 気づく力 築く未来 家庭基礎 | 実教出版 |

| | |
|-------|--|
| 科目の目標 | <p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。</p> <p>(3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。</p> |
|-------|--|

| 単元及び学習内容 | 観点別評価基準 | | | 評価の観点及び評価方法 | 実施予定時期 |
|--|--|---|---|--|----------------|
| | 知識 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | | |
| 第1章 これからの人生について考えてみよう 1 自分の未来予想図を描こう 2 これからの人生をデザインする | 人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解しているとともに、自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理を行い、生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解を深めている。 | 生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生涯の生活設計について課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 | ワークシート 定期考査 発表 | 4月 |
| 第6章 食生活をつくる 1 日本の食文化の形成 私たちの食生活 3 栄養と食品のかかわり 4 食品の選び方と安全 5 食事の計画と調理 6 これからの食生活を考える | ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解しているとともに、自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について理解しているとともに、目的に応じた調理に必要な技能を身に付けている。 | 食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 | ワークシート 振り返りシート 調理実習 調理実技テスト 定期考査 | 4月 から 6月 |
| 第2章 自分らしい生き方と家族 1 自立と共生 2 ライフキャリア 3 共に生きる家族 4 家族に関する法律 | 生涯発達の視点で青年期の課題を理解しているとともに、家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深めている。 | 家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することや、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、青年期の自立と家族・家庭について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 | ワークシート 振り返りシート グループワーク 定期考査 | 7月 |
| ホームプロジェクト 学校家庭クラブ活動 | ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解している。 | 自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 | 夏課題 発表 | 7月・ 9月 |
| 第3章 子どもとかかわる 1 子どもとは 2 子どもの発達 3 子どもの生活 4 子どもをはぐくむ 5 子どものための社会福祉 | 乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子供を取り巻く社会環境、子育て支援について理解しているとともに、乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付けている。 | 子供の健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、子供の生活と保育について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 | ワークシート 振り返りシート 定期考査 | 9月 |

| 単元及び学習内容 | 観点別評価基準 | | | 評価の観点及び評価方法 | 実施予定時期 |
|--|--|---|---|--|-----------------|
| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | | |
| 第4章 高齢者とかかわる 1 高齢社会に生きる 2 高齢者を知る 3 高齢者の自立を支える 4 高齢者を支えるしくみ | 高齢期の心身の特徴、高齢者を取り巻く社会環境、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解しているとともに、生活支援に関する基礎的な技能を身に付けている。 | 高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、高齢期の生活と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 | ワークシート 振り返りシート 定期考査 | 10月 |
| 第8章 住生活をつくる 1 人間と住まい 2 住まいの文化 3 住まいを計画する 4 健康に配慮した快適な室内環境 5 安全な住まい 6 持続可能な住まいづくり | ライフステージに応じた住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解しているとともに、適切な住居の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 | 住居の機能性や快適性、住居と地域社会との関わりについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、住生活と住環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 | ワークシート 振り返りシート 間取り設計 発表 定期考査 | 11月 |
| 第7章 衣生活をつくる 1 人と被服のかかわり 2 被服の素材の種類と特徴 3 被服の選択から管理まで 4 持続可能な衣生活をつくる 5 衣服の構造・デザイン | ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解しているとともに、健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理ができる。被服材料、被服構成及び被服衛生について理解しているとともに、被服の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 | 被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、衣生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 | ワークシート 振り返りシート 基礎縫い実技テスト 定期考査 | 12月 から 1月 |
| 第9章 消費行動を考える 1 消費行動と意思決定 2 消費生活の現状と課題 3 消費者の権利と責任 4 ライフスタイルと境界 | 消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解しているとともに、生活情報を適切に収集・整理できる。 | 自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、消費行動と意思決定について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 | ワークシート 振り返りシート 定期考査 | 2月 |
| 第10章 経済的に自立する 1 暮らしと経済 2 将来のライフプランニング 3 生活設計 | 家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理について理解している。 | 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活における経済の計画について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 | ワークシート 振り返りシート 定期考査 | 2月 |
| 第5章 社会とかかわる 1 支えあって生きる 2 共生社会を生きる | 生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解しているとともに、持続可能な社会へ参画することの意義について理解している。 | 持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、持続可能なライフスタイルと環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 | ワークシート 振り返りシート 定期考査 | 3月 |

| | |
|------|---|
| 学習方法 | <ol style="list-style-type: none"> 1 学習する上で、よりよい生活を営むためにどうあるべきかを考え、課題解決に向けて主体的に取り組むこと。 2 ワークシート・振り返りシートなどは、自分の生活スタイルにあてはめて考え、できるだけ具体的に記入すること。 3 実習については、基本的な技術を身に付けられるよう、意欲的に取り組むこと。 4 定期考査は、教科書・家庭科学学習ノートを中心に学習すること。 |
|------|---|

令和6年度 「総合的な探究の時間」

| 教科科目 | 単位 | 学年・類型 | 教材 | |
|---|---|--|--|--|
| 総合的な探究の時間 | 1 | 第1学年 | ワークシート、新書、新聞記事、インターネットなど | |
| 目標 | <ul style="list-style-type: none"> 自己への理解を深め、人としての在り方生き方について考えるとともに、自らの将来の姿や社会における役割を意識できるようキャリアプランニング能力を高める。 職業を理解し、自己の進路について考えるとともに、現在の高校生活と関連付けて主体的に探究活動に取り組み、生涯にわたって学び続ける態度を養う。 現代社会の動きや他者からの情報を意欲的に収集するとともに、自らの考えをまとめ、積極的に表現する態度や能力を培う。 | | | |
| 時間 | 内容 | 配当時間 | 学習方法 | 評価の観点と評価方法 |
| 1 2 3～5 6・7 8 9 10 11 12 13 14 15～16 17～21 22～26 27 28～31 32～34 35 | クレペリン検査 オリエンテーション 小中学校を振り返る 進路指導講話 仕事について考える 職業レディネステスト 教育実習生講話 新書回転寿司 オープンキャンパス計画 職業レディネステスト分析 キャリアガイダンス② 自分の関心を確かめる 学問探究① 学問探究② 新聞の読み方講座 学問探究③ レポート作成 1年の振り返り | 1 1 3 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 5 5 1 4 3 1 | 「総合的な探究の時間」の目的及びねらいを聞き、各自の目標・到達点を設定する。 印象に残っている授業や活動を振り返り、自分史に重ねる。 自分がどう変化したか、今後どう成長していきたいかをまとめる。 グループ内でスピーチを実施し、相互評価を行う。 本校における進路指導の計画を聞き、各自の進路計画を立てるきっかけとする。 自分が仕事に求めるものは何か考えてまとめ、クラスで発表する。 職業に対する興味・自信度・志向性を検査する。 教育実習生の話を聞き、進路や大学についての興味・関心を深める。 様々な分野の新書を読み、印象に残ったものについてコメントする。 オープンキャンパス参加の計画を立てる。 職業レディネステストの結果を分析し、自分の興味や志向性について考える。 外部講師の講話を聞き、就業継続の意識を高める。 マインドマップを作り、自分の就きたい職業や興味のある学問は何かを考える。 関心を持った職業や学問について調べてまとめる。 興味のある分野の新書を読み、気付いたことやわかったこと、さらに知りたいことなどをまとめ、班で発表する。 外部講師の講話を聞き、新聞の読み方を知る。 新聞を読んで興味のある記事を探し、学問探究①での気付きと関連させてまとめ、班で発表する。 学問探究①・②で取り上げたテーマと関連のある学問や、それが学べる学部学科について、大学パンフレットやホームページなどで調べる。 気づいたことをまとめ、班で発表する。 学問探究①～③で気付いたこと・わかったことを踏まえ、自分の進路と社会問題に関する現在の関心をレポートにまとめる。 作成したレポートを班で回覧・発表する。 1年間の活動を振り返り、自分の現在の関心を確かめる。 | <評価の観点> ○自己理解力 ○キャリアプランニング能力 ○主体的な学習態度 ○社会への関心・社会人基礎力 <評価の方法> ○活動記録 ○行動観察 ○発表内容 ○レポート内容 |
| 年間授業時間 | | 35 | | |